

平成24年度 年報

駒ヶ岳・大沼



【平成24年11月 モデル事業地における現地検討の様子（七飯町／吉野山国有林）】

森林環境保全ふれあいセンターは、

国有林野を活用し、自然再生や生物多様性の保全に取り組むNPOや森林環境教育に携わる教育関係者等の活動を技術的に支援する組織として、平成16年4月に設置されました。



国民の森林・国有林

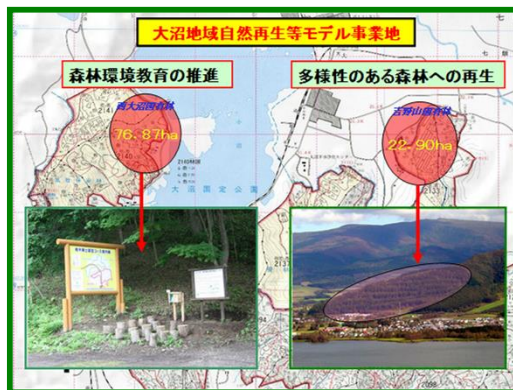
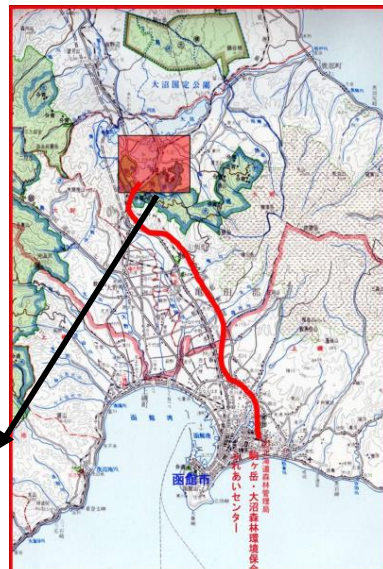
林野庁 北海道森林管理局
駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンター

大沼地域自然再生等モデル事業の取組

モデル事業地は、大沼国定公園エリアに所在し、漁業関係者から水質保全、観光関係者から景観の維持向上、自然保護関係者から鳥獣生息環境の維持向上等が強く求められているなど、環境保全や森林整備に係る関心や期待の高い地域となっています。

このため、モデル事業の推進について、自然保護関係者や民間ボランティア団体等の代表者で構成する検討委員会を開催し、モデル事業地の箇所を選定、森林の取り扱い、事業の推進方法等についてのグランドデザインを作成するとともに、地域等が大沼地区の国有林に求めているニーズをモデル事業に反映するよう努めることにしています。

「大沼地域自然再生等モデル事業」は、地域住民等と連携し、「多様性のある森林への再生」と当該地及び近接地において「森林環境教育の推進」を主とし、取り組みを進めることとしています。



- ＝ 検討委員会 ＝
- 平成16年度
グランドデザイン作成ために
3回実施。
 - 平成17年度～平成23
年度「グランドデザイン」に
基づく事業内容の検証
及び検討のため年に2回
実施。

☆ 「大沼自然豊かな森づくり協議会」の開催

平成24年4月23日（月）、南北海道大沼婦人会館（七飯町）において、17名の委員が参加し第8回「大沼自然豊かな森づくり協議会総会」を開催しました。宮崎会長を議長に、平成23年度の実行内容、24年度の計画と実行体制について事務局より提案の後、討論を行いました。

委員からは、「多様性のある森林への再生の取組を更に強化すべき」、「各種植生調査の継続化を」などの意見が出されました。併せて、役員体制については全員が再任され、今後も会長を中心として、自然再生等の各種事業実行に当たり、お互い協力・連携を図りながら取り組むことを確認し総会を終了しました。

★当協議会は、大沼地域自然再生等モデル事業のグランドデザインに基づき、森林の再生活動を行うことを目的として平成17年4月に組織されたものです。

【協議会の様子（平成23年4月26日）】



協議会参加団体等名

- 大沼漁業協同組合
- 大沼町内会連絡協議会
- 大沼の水と緑を守る会(NPO)
- 大沼マイルストーン22(NPO)
- 北海道森林鳥類調査室クマガウ研究会(NPO)
- 函館地方国有林退職者緑の募金推進協議会
- 21世紀の道南の森林づくり事業実行委員会
- 個人会員及び関係行政機関

☆ 多様性のある森林への再生

大正14年植栽ドイツトウヒ人工林と昭和56～58年植栽トドマツ人工林、及び昭和27年度植栽カラマツ人工林の22.90haの森林を、地域ニーズを踏まえた生物・水質・景観など多様性のある森林へ誘導します。【具体的には、周辺の天然林を参考とした森林へと育成します】



「多様性のある森林への再生」箇所において、様々な取り組みを行っています。平成23年度の主な実施内容は、次のとおりです。



「下刈作業」の実施

平成24年7月25日（木）、大沼地域自然再生等モデル事業の「多様性のある森林への再生箇所」において、国際ワークキャンプなど総勢18名により、下刈作業を実施しました。

作業地は吉野山国有林（七飯町）のドイツトウヒ伐採跡地で、平成18年にミズナラやトチノキの実を播種した箇所を実施。苗木は2メートルを超える雑草に覆われており、参加者は雑草をかき分け、苗木を切らないよう慎重に鎌を振り、作業を行いました。



成長したミズナラとトチノキ



「国際ワークキャンプ」の受け入れ

「国際ワークキャンプ」とは、世界中から集まった若者が一緒に生活し、「森林の手入れ」、「動植物の保護」、「有機農業の支援」、「学校の建設」などを行う「国際ボランティアプロジェクト」で、世界約100か国、約3,000箇所で行われています。日本では国際ボランティアNGOのNICE(ナイス)が「国際ワークキャンプ」の企画、運営、参加者の募集等の事務を行い、日本各地には実施する協力団体があり、北海道では函館市にある「北海道国際交流センター」が受皿団体になっています。

当ふれあいセンターでは、吉野山国有林（七飯町字大沼）で実施している「大沼自然再生等モデル事業」において、自然再生等への取組の一環として、各種森林ボランティア活動の機会を提供しています。今年は、フランス、イタリア、チェコ、アメリカ、韓国、日本など12か国、21人の20代を中心とした若者が、ここ大沼に集合しました。

当センターが担当する”森林ワーク”では、7月24日から9月12日までの13日間、下刈や歩道修理などの作業をサポートしました。

キャンパーに概要説明



作業終了後、集合写真



PHOTO

下刈作業



ランチタイム



道路維持作業



検討委員会の開催

平成24年11月5日（月）に、大沼地域自然再生等モデル事業の箇所（吉野山国有林2133林班）において、「第1回大沼地域自然再生検討委員会」を開催しました。議題は今年度実施したカラマツ人工林の収穫調査結果等について意見交換を行いました。また、平成25年3月11日（月）に、「第2回検討委員会」を開催し、各委員から出された貴重なご意見をモデル事業に最大限反映させるよう取り組んでいく予定です。

第1回



ボランティア除伐



☆ 森林環境教育（樹木博士認定会）の推進

西大沼国有林の**樹木博士認定常設コース**（平成16年10月オープン）を拠点とし、森林に対する関心と理解の醸成を図る活動を実施しています。

具体的には、森林環境教育の指導者の養成等のための**樹木博士認定会**の開催や研修会等を実施し、森林環境教育を推進します。また、多様性のある森林への再生活動（吉野山国有林）においても森林環境教育を実施することとしています。



樹木博士認定常設コース



常設コース看板



認定会の様子

樹木博士認定会とは

樹木の名前や識別方法を学習した後、樹木名を答える試験を行うもので、それをきっかけとし、森林に親しんでもらうことを目的とした森林環境教育（アウトドア活動プログラム）のひとつです。

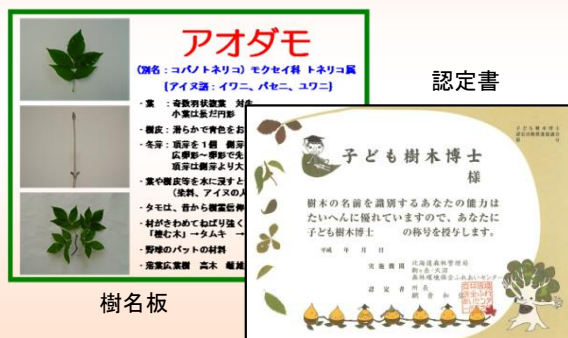
樹木博士認定コース

子ども樹木博士認定活動推進協議会（平成12年設立 現会長：木平勇吉東京農工大学名誉教授）のプログラムを採用し、平成16年には、この活動を地域に広めることと森林環境教育に関する指導者の養成を図るための活動の拠点として、誰でもいつでも利用できる「常設コース」を大沼国定公園内の西大沼国有林（七飯町）に開設し、対象者を子ども達だけではなく一般にも広げ、毎年**定期的（年4回）**に開催しています。



進め方

1時間程度の樹木の説明を受けた後、樹種名（20～30種）を答える試験を行い成績に応じて段級（**最高位は10段**）を与え、認定書を授与します。



樹名板

認定書

コース概要

- ◆ コースの距離 事前学習コース [450 m]
テストコース [390 m]
周 遊コース [2050 m]
- ◆ 試験 樹 種 46種（ブナ・ミズナラ・スギなど）



左写真はセンターで作成した「樹木ガイドブック／全70ページ」（平成23年3月発行）

このガイドブックにより、樹木の説明を行います。



平成24年度の樹木博士認定会の取組については、公募により5月、7月、8月の3回（9月の第4回は雨のため中止）の定期開催を実施しました。また、より多くの挑戦者の参加を期待して、函館市教育委員会で行っている生涯学習講座「HAKODATEまなびっと広場」に参画し、選択科目の一つとなっています。

定期開催の開催結果の内容については、次のとおりです。

第1回開催



第2回開催



第3回開催



本年度の定期開催の参加者総数は46名であり、そのほとんどは大人の常連者であることから、子ども（教育機関等）への働きかけが必要となっています。

● 定期開催結果

回数	認定会日時	参加者	内 訳
第1回	6月 3日（日） 10：00～12：30	13人	子ども0、大人13
第2回	7月22日（日） 10：00～12：30	14人	子ども0、大人14
第3回	8月 5日（日） 10：00～12：30	19人	子ども1、大人18
第4回	9月 9日（日） 10：00～12：30	中止	

● その他開催

亀田港児童館母親クラブ・森への誘い講座・江差北小グリーンスクール	97人	子ども53、大人44
----------------------------------	-----	------------

● 樹木博士認定状況

24年度末 累計	1,958人（平成12年度の旧函館分局から行ってきた計です）
----------	--------------------------------

その他の取組

☆ 森林づくり塾2012 開校

目的

森林の役割や森林づくりの基礎を学び、実際の森林作業を体験することにより、森林作業の技術の習得、また、森林の中での楽しみ方を体験し、理解を深め、森林ボランティア作業への参加意識の醸成と森林環境教育のリーダー的存在となりうる人材の育成を目的としています。

森林づくり塾の取組については今年度で6年目となります。参加者は公募を行った結果、函館市近郊から31名となり、森林作業を中心とした全6回の講座を実施しました。

各講座の実施内容については、次のとおりです。

第1回講座

「函館北斗ライオンズクラブの100万本の植樹合同アクト」に16名の塾生が参加し、植樹（植付）の基礎知識について、体験を通して学習してもらいました。当日は、ライオンズクラブ参加者と合流したあと約600本のミズナラやサクラ苗木を一本一本丁寧に植えました。



第2回、第3回講座

第2回は、「下刈作業」を実施して、その目的・効果などを学習。第3回は、講師に北海道アウトドアガイドの自然観察指導員 木村マサ子さんを招き「草本類の観察会」を函館山登山コースにおいて実施し、それぞれ心地よい汗を流しました。



第4回、第5回講座

第4回は、斎藤 晶 樹木医を講師に招き「森林環境教育の基礎講座」、また前々回同様「下刈作業」を実施。第5回は、森林体験としてトドマツ人工林の「枝払い」・「間伐」を実施して、その目的・効果を学習しました。



第6回講座

第6回（最終）は、21世紀の道南の森林づくり事業実行委員会委員長の武下秀雄氏を講師に招き「森林ボランティア活動について」と題して、同委員会のこれまでの活動状況や森林ボランティアへの積極的な参加の要請などの講義を実施し、午後からは森町の製材工場「株式会社ハルキ」を見学会しました。

最後には、塾を締めくくる閉講式・修了証書の授与を行い、本年度の全講座を終了しました。



☆ 自動撮影装置による野生動物撮影

自動撮影装置

当センターでは、大沼周辺(七飯町)の森林における野生動物(中大型哺乳類等)の生息調査を実施しています。

- 調査目的・・・野生動物の生息状況を長期的に記録し、その変化と環境の変化とのかかわりを研究する。
- 調査方法・・・自動撮影装置(カメラ)による撮影(焦電型赤外線センサーに反応する動物を撮影)
- 調査時期・・・年2回(夏、秋)実施



PHOTO



エゾシカ



ニホンテン



エゾタヌキ



キタキツネ



コウモリ



ヒグマ

☆ 森林環境教育 等



高校生を対象とした下刈作業をサポート

平成24年 6月 8日（金）、函館有斗高等学校
平成24年 6月14日（水）、函館柏稜高等学校
風倒被害跡地に平成18年10月12日「柏稜 永久の森 0.50ha ミズナラ400、ブナ300、マカバ300本」、10月21日「有斗 希望の森 0.52ha ミズナラ1000本」として植付し、以降新入生に環境教育の一環として渡島森林管理署が講義を含め下刈作業を実施しています。今年度から、当センターもサポートしています。



はこだて花と緑のフェスティバル2012に参加

平成24年6月23日（土）・24日（日）、JR函館駅西口横（大手町）において、「はこだて花と緑のフェスティバル2012」が開催され、当ふれあいセンターはその両日に参加し、森林環境保全ふれあいセンターの活動内容、自然再生モデル事業及び森林環境教育の取組内容、また森林の植物写真を「パネル展示」で紹介したほか、「巣箱作り（木工品）」体験と「落ち葉の万華鏡づくり」も併せて行いました。

当センターのブースでは、パネルを見学して一緒に写真を撮る人や、また、巣箱作り体験においては、用意したキットはあっという間になくなるなど、たくさんの人々で賑わいを見せ、人々と交流する中でとても有意義な2日間となりました。



亀田港児童館母親クラブの森林教室をサポート

平成24年10月14日（日）、函館市亀田港児童館母親クラブ主催の小中学生8名を含む24名が参加して行われ、当ふれあいセンターは4名の講師を派遣し、七飯町西大沼国有林の樹木博士常設コースでミズナラやトチノキなど20種類の樹木を対象にした「樹木博士認定会」を体験してもらいました。「聞き慣れない言葉に戸惑いながらも特徴を一生懸命覚えるのに必死の様子。テストでは、3名が満点をとるなど皆さん好成績で認定会を終りました。



道民森づくりネットワークの集いに参加

平成24年10月20日（土）、道庁赤レンガ庁舎前庭（札幌市中央区）を会場に「道民森づくりネットワークの集い」が開催されました。当センターからは、今年度実施した「大沼地域自然再生等モデル事業」「森林環境教育」などの取組についてパネル展示し、活動内容をPRしました。また、秋の紅葉に因んでカエデの仲間3種について名前当てクイズも行いました。



渡島東部森林室主催「森への誘い講座」をサポート

平成24年10月24日（水）、渡島総合振興局東部森林室（函館市柳町）主催「森への誘い講座」が、七飯町の樹木博士認定常設コース（西大沼国有林）で開催されました。当日は、参加者30名の熱心に勉強する姿勢や、自然を満喫し楽しむ風景が見られるなど、それぞれが充実感をもって終了することができました。



檜山森林管理署（厚沢部町）主催「グリーンスクール」の講座をサポート

平成24年10月26日（金）、江差北小学校（全年年約120名）を対象とした、檜山森林管理署主催「秋のグリーンスクール」が開催され、当ふれあいセンターは5・6年生を対象とした子ども樹木博士を担当しました。児童たちは初めて聞く木の名前に戸惑い特徴を覚えようと真剣。その甲斐あってたくさん全問正解者が出ました。短い時間の中でこれだけ覚えることができることは、子どもたちの秘めた可能性に改めて感心した一時でした。



🌲 国有林におけるNPO団体等活動発表会で発表

平成24年12月8日（土）、札幌市教育文化会館において当ふれあいセンターの活動に積極的にご参加いただいている「函館の森林の再生と活用を考える会代表木村マサ子さん」が同会の活動等について発表されました。



🌲 北の国・森林づくり技術交流発表会(高校部門)で発表

平成25年1月24日（木）と、25日（金）、札幌市中央区かでの2・7において北海道函館水産高校の水戸隆太さんが「大沼」から全国、そして世界へ～「森林づくり塾」発～を発表し奨励賞を授与しました。

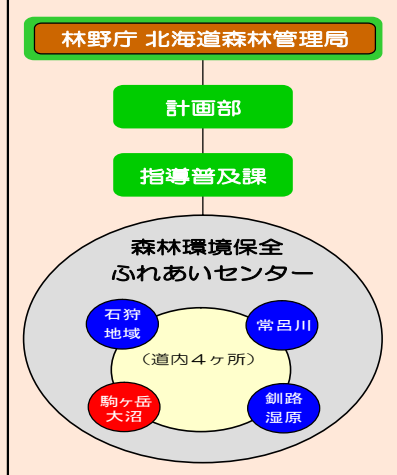


🌲 国民の森林づくり感謝状贈呈式

平成25年3月4日（月）、北海道森林管理局において今年度当ふれあいセンターが選考項目に合致し推薦していた「函館の森林の再生と活用を考える会代表木村マサ子さん」が出席し、津元頼光北海道森林管理局長ほか幹部の皆さんからその功績を讃えられました。



組織図 (平成16年4月設置)



アクセス





10/31 ひとみ保育園 とんぐり 運動



7/24 国際ワークキャンプ 森林作業



**10/14 樹木博士 認定コース
「参加賞だよ」**



1/21 大沼 ホオジロガモ

国有林は「国民の森林」です。皆さま方からのご意見ご要望等をお待ちしています。

林野庁 北海道森林管理局
駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンター

〒042-8550 北海道函館市駒場町2-13

TEL 0138-51-0381

FAX 0138-51-8178

E-mail h_koma_f@rinya.maff.go.jp